

# 「あさひ姫プロジェクト」の実施について ～榎野川河口干潟における竹を用いた二枚貝育成イベント～

山口県環境保健センター ○梶原丈裕・惠本 佑\*・上原智加・川上千尋  
\*現 山口県環境政策課

## 榎野川河口域・干潟自然再生協議会

自然再生推進法の枠組みを活用して、産・学・民・公の様々な主体の参画により組織された平成16年から、アサリ漁場の再生やアマモ場の創出に向けた様々な活動等を実施している

二大目標 ①豊かな漁場の復活 ②環境体験の場としての活用



昨年度は  
のべ836名  
が参加



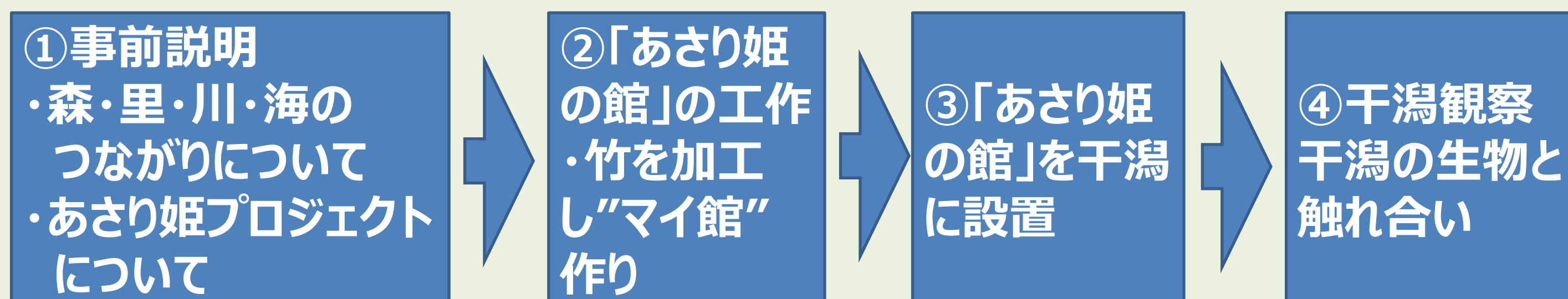
## 「あさひ姫」とは?

あさひ姫は竹の中でアサリを1年程度飼育する学習プログラムで、かぐや姫との類似から名付けられた。自らアサリを管理し育むことで人と海との関わりを学習する効果等が期待できる。徳島県の「沖洲海浜楽しむ会」が考案。



## 第1回 あさひ姫イベント【竹筒作り・干潟設置】

日 時：平成29年7月22日（土）10:00～14:30  
場 所：きらら浜自然観察公園，榎野川河口干潟（南潟）  
主 催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会（環境学習WG）  
協 力：竹林ボランティア山口，株式会社伊藤園 山口支店  
参加者：25名（参加費：700円）  
【当日の流れ】



## あさひ姫の館のつくり方等

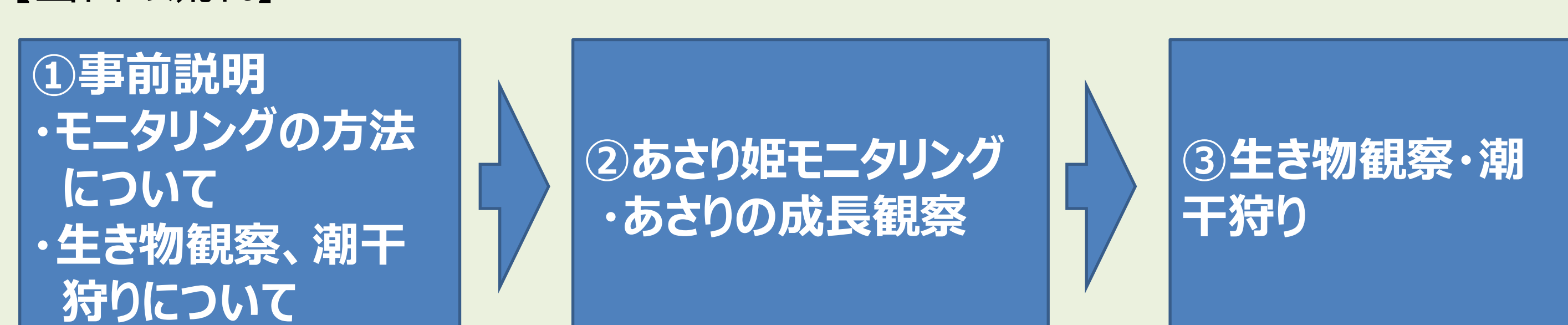
- ①孟宗竹(2節分)の節を抜き、筒状にする
  - ②固定杭用の穴2ヶ所と通水用のスリットを空ける
  - ③メッシュとタグを結束バンドで固定する
- 【設置方法】  
干潟の砂泥とアサリ稚貝を入れ、鉄筋杭で固定する

## 第1回イベントの結果

- 【アンケート結果から】
- 体験型環境学習は、参加者に好評だった
  - 参加者は主に30～40代で、小学生以下の子供と一緒に参加
  - 子育て世代への情報発信は、職場や学校への広報が有効であった
  - 再生活動の資金獲得は寄付を募るよりも、イベント参加費等によって獲得する方が現実的と考えられた

## 第2回 あさひ姫イベント【モニタリング】

日 時：平成30年6月16日（土）14:00～16:30  
場 所：榎野川河口干潟（南潟）  
主 催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会（環境学習WG）  
協 力：株式会社伊藤園山口支店  
参加者：20人（第1回目の参加者）（参加費：無料）  
【当日の流れ】



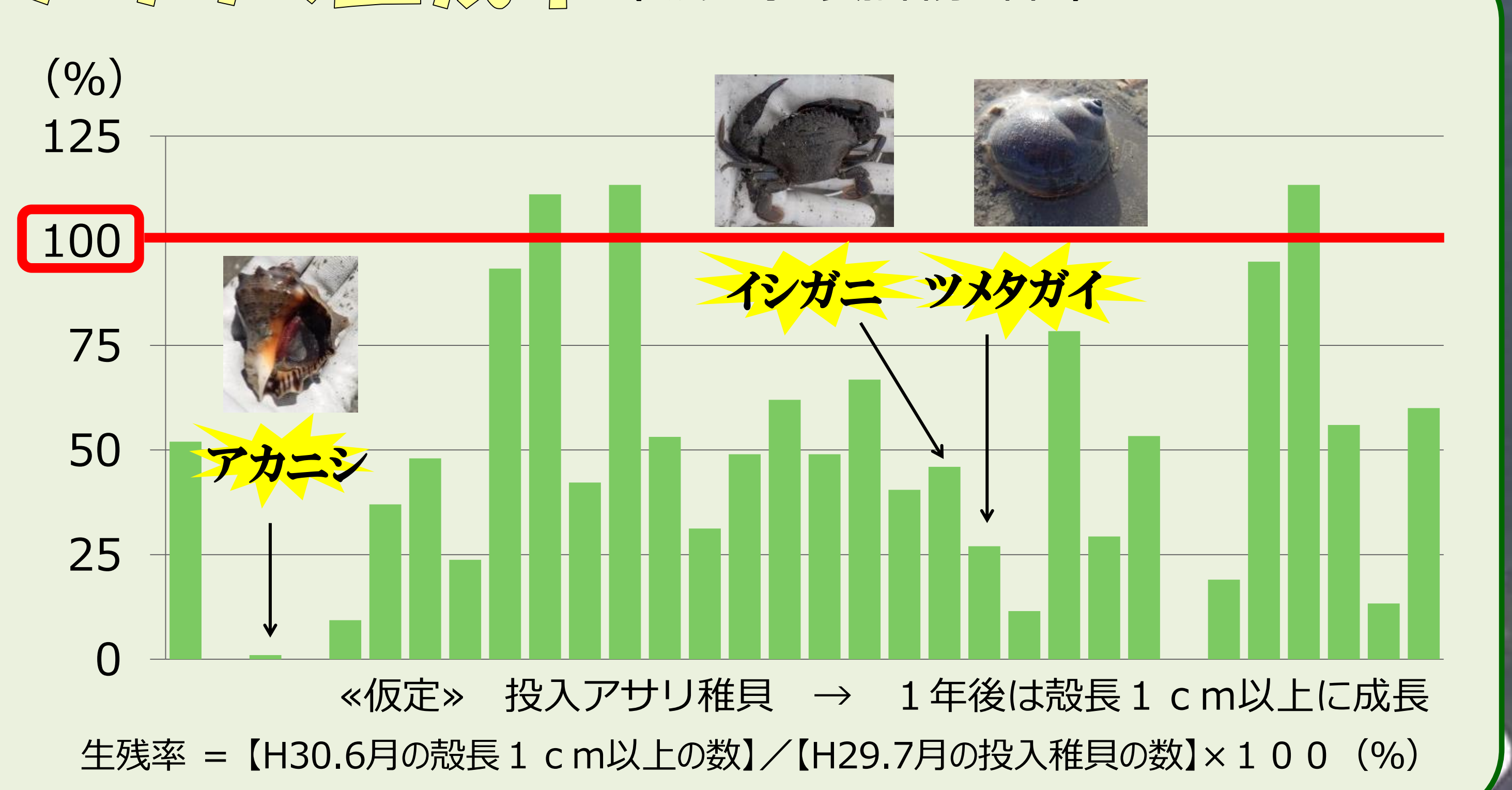
## 追跡調査結果

- 生残率は0～106%(第2回イベント比)で、3cm超のアサリは7%であった ※全体の20%を追跡調査 生残率の高い筒優先
- 第2回イベントに比べ、網の破けが確認できる館が散見された

## 第2回イベントの結果

- 第1回参加者の80%が、第2回イベントにも参加した
- アサリの生残率は0～113%で、ネットの破けや食害生物が確認された館では、生残率が大きく低下した一方、新規アサリの加入で生残率が100%超の筒も確認された
- 竹筒の構造(スリット数)や干潟への設置方法(アサリ投入数、潮に対する向き、干潮時の浸水、砂泥への埋もれ)を工夫したが、モニタリングの結果、優位な差は確認できなかった

## アサリの生残率



## まとめ

- 【アサリの育成関係】
- 竹筒内のアサリの生残数について、竹筒の構造や設置方法による優位な差は確認できなかった
  - ネット破けや食害生物の侵入で、生残率が低下するため、ネットの管理が重要である
  - 成貝(3cm以上)になるアサリは少なく、網の破けが散見されるようになるため、育成期間は1年程度が適切と考えられる
- 【イベント関係】
- 体験型環境学習は参加者に好評であり、子育て世代をターゲットに学校や職場に広報することが有効と考えられる
  - 複数回干潟を訪れるため、干潟への理解が深まり、今後のボランティアに参加する人員の獲得方法としても有効と考えられる
  - 持続可能なイベントのための資金獲得は寄付を募るよりも、イベント参加費等によって獲得する方が現実的と考えられる

